

ぼくの家には、家族だけじゃなくて、クモも住んでいます。よく家の中にいるので気になって図かんで名前を調べてみると、ネコハエトリという名前のハエトリグモの仲間のクモでした。ハエトリグモは、ハエなどの小さい虫を取って食べるので、ハエトリグモという名前になったそうです。ぼくは、クモはこわくありませんが、クモの巣が苦手です。でも、本には、「巣を作らないクモ」と書いてあったので、こわくはないです。むしろ好きです。

ハエトリグモは、毎年八月ごろになるとよく見かけるようになります。自分の部屋で勉強をしていると、一匹のハエトリグモが机の上に来てきました。気になったのでよく見てみました。すごく毛がふさふさで、大きな目が、真ん中に二つあり、その左右の少し上に、小さな目がありました。その小さな目のななめ上にも小さな目が、左右に一つずつありました。近くで見ていると、クモは、見られていることに気が付いたのか、かべを上って、ピョンピョンと上の方に逃げたしまいました。そして、十五分ぐらいたつと、別のハエトリグモがやってきました。ぼくに気が付いていないのか、きよるきよるとしています。そして、かべを上って行ったので、ぼくは、勉強をほったらかしにしてハエトリグモに見つからないように追いかけてきました。そのままかべを進んで行くと、かべをつたって、床におりました。ぼくは、「何をしているんだらう。食べ物さがしているのかな。」と考えながら、追いかけて行きました。ハエトリグモは、倉庫のとびらとかべのすき間から、倉庫の中に入ってしまいました。ぼくは、追いかけるのをやめて、また勉強にもどろうとしましたが、その時、またさつきのハエトリグモが倉庫か

ら出てきました。でも、その時ぼくはイスに座っていたので、倉庫から出てきたことに気付いていませんでした。ふり向いたら、ハエトリグモが倉庫から出てきました。なので、また追いかけてようと思いました。ハエトリグモは、ぼくに気付いていたのか、じつとこつちを見ていて、ぼくは、「追いかけてたことがばれたのか。」と思い、追いかけるのをあきらめました。

家の外にも、ハエトリグモがいます。窓やかべにいるところをよく見かけます。外にいるハエトリグモは、家の中にいるハエトリグモより、少し大きいです。ぼくは、「外の方が食べ物になる虫がたくさんいるから外のハエトリグモの方が大きいのかな。」と考えました。

外に出て、背の高い草の上を見たら、二匹のハエトリグモが向かい合っています。よく見ると二本の前足を上にあげていました。虫の図かんで調べると、これはオス同士がいかくをしているところでした。前足を上げて、後ろの足を伸ばして、背伸びをしていたので、きつと少しでも相手に自分の体を大きく見せて、「オレは強いぞ。」

「オレの方がもつと強いぞ。」と二匹で張り合っているのではないかなと思いました。

ベランダのあみ戸にとまって、小さなハエのような虫をハエトリグモが食べていました。口のまわりについている、小さな足のようなものを使って器用に食べていました。床を見ると、ミツバチの羽くらいの大きさの羽が落ちていました。なので、ぼくは、「あんな、自分よりも大きい虫だつて食べるんだな。」と思いました。そして、「虫を食べて美味しいのかな。でも、ミツバチだったら、はちみつが甘いのかな。」と思いました。でも、ハエトリグモの気持ちは分かりませんでした。

八月の半ばぐらいになってくると、あまりハエトリグモを見かけなくなり、きつと、もうあまり、外に出て行動する季節ではないんだと思います。でも、

冬や外に出ない季節は家のどこにいますでしょうか。ぼくは、きっと、家の屋根裏に、たくさんのハエトリグモが住んでいる、「クモの世界」があると思います。家の天井のどこかに入口があつて、そこからクモが出入りしていて、夏は外に出てごはんをさがしたり、新しい家をさがしたりして、秋や冬になると、家の中でごはんを食べたり、寝たりしてのんびり暮らしていると思います。もしも、本当に「クモの世界」があつたら、一度行つてみたいです。 3・9